

## F-REI 市町村座談会（富岡町）議事要旨

1. 日 時 令和5年10月11日(水) 15:50～17:05

2. 場 所 富岡町文化交流センター「学びの森」2階会議室

### 3. 議 事

(1) 開 会

(2) 挨拶

(3) F-REI の取組紹介

(4) 意見交換

<テーマ> F-REI との未来の連携について

(5) 閉 会

#### 【主な発言内容】

- 福島の復興を進める中で従来の測量方法では限界があると考え、ドローンを用いたレーザー照射で地形を測量している。測量だけではなく、森林、農業、防災、放射線計測の分野など、様々な分野で復興のための活動を行っており、それが結果的に開発や実証につながった。
- F-REI には、しっかりと地域に根差してもらいたい。F-REI と様々な形で連携することにより、最終的に地元の企業も成長できるような形になればよい。
- この地域は原発があったことから、エネルギー関連のインフラ施設や多くの人材が揃っているので活用を考えてほしい。
- 日本一住みやすい浜通りという言葉に大変共感した。人口が0になった世界に前例のないこの地域は、まちづくりの目標をしっかりと持ち、その目標から逆算して行動することが大事である。
- F-REI の第5分野に近い、まちづくり計画というアプローチから富岡町を中心とした双葉郡の課題解決に取り組んでいる。
- 常磐線の東側が災害危険区域に指定され、居住できなくなったことから、元居住者

の行政区長等と協働して、この場所を魅力的な場所にするための将来イメージを作成し、富岡町や関係機関に提案をしたノウハウがあるので、第5分野の面で協力できることがあれば積極的に協力したい。

- F-REI ができたことによって町民の暮らしが豊かになったという波及効果が生まれるよう、広域連携の活動を一緒に取り組んでいきたいと考えている。
- 商工会の会員も従前からの会員と震災後の入会者がほぼ半々の状態で産業構造と組織構造が全く変わってしまっている。
- F-REI の研究者などが住んだり訪れたりすることによる商圈の拡大を期待している。
- F-REI の活動について、会員にしっかりと伝え、それぞれの企業ができることに取り組んでいきたいと考えているので、わかりやすい情報発信をお願いしたい。
- 自分自身は子育て世代であり、教育が非常に重要だと思っている。どちらかと言えばハンディキャップがある富岡でいかに上手くデジタルを活用して子育てをしていくかということで悩んでいる。
- 富岡には大人も子供たちもワクワクすることがないが、デジタルファブリケーションやSTEAM教育に触れる機会を創出することで、解決できるのではないかと考えている。デジタルを活用した子育ての基盤作りをF-REIと一緒に取り組んでいければと思う。
- 化学肥料高騰への対応や自給率の向上といった問題の解決に向けて、福島県が日本の先駆けとなれるよう、F-REIとともに活動していきたいと考えている。
- 現在、科学肥料・農薬の削減や有機農業の推進のための技術開発、合鴨ロボットの実証について、富岡町の農家にご協力いただき、実習の形で学生の教育を行っている。福島県出身の学生もあり、Uターンして活躍できるような人材を輩出したいと考えている。
- F-REIには、PI人材の育成や若い研究者への研究費の交付などをお願いしたいと考えている。また、次代の日本の農業で活躍できる人材をF-REIと連携して輩出していきたいと考えている。

- 除染に伴う営農再開時期の違いによる地力の差があり、また、人手不足等の状況の中で、農工大の学生等と連携できるのはありがたい。
- 現在の日本の農業は、やればやるほど損失が出るような構造であり、付加価値を付けていかなければならず、そのような中で GPS を活用した農業など、F-REI の取組には期待している。
- 小中学生が相当減少した状況において、多岐にわたる教育を望む保護者の思いに応えられない教育環境となっている。
- F-REI が先端的な知識を提供することにより、子供たちが世界レベルのものに触れて、将来の選択ができるような知識を吸収できるようになることを期待したい。
- F-REI の研究が福祉にもつながっていくことも期待している。
- F-REI からこの地域に何を期待しているのか発信すれば、更に連携が進むのではないかと考える。
- 小中学生も大事であるが、高校生も大切にしてほしい。特に実業高校の子供たちを地域として大切に育てれば、日本の未来も明るいのではないかと思う。
- 富岡町にぜひ研究者の住宅や研修施設を作してほしい。そして、開かれた研究機関として、オープンラボや地元の人が F-REI で講座を受けられる等、身近な存在となしてほしい。
- 富岡は四季折々の祭りがある。F-REI の方々も来ていただき、時にはブースを出すことで地域の方々との交流をしてほしい。
- 当法人では、大学生のインターンを受け入れる活動を始めた。その中で F-REI を体験できるようなプログラムを組めれば、学生にも刺激になると思う。
- F-REI の 5 つの研究テーマに特化した高等専門学校のようなものができれば、若い人材を呼び込むことができるのではないかと考える。